

東亞天文協會觀測部月報

掩 蔽 課

其後の入課申込者を加へて、課員は下記の七君である。

氏 名	住 所	經 度	緯 度	標高
公文 武彦	京都、花山天文臺	東 135°47.6	北 34°59.7	221米
高城 武夫	ク ク	ク	ク	
高木 幸	香川縣	東	北	
荏部 進	神戸市、高羽ソッ山	東 135° 0.2	北 34 43.2	
宮崎 正男	三重縣四日市	東 136 37	北 34 56	
山田 長	山口縣柳井町	東 135 35.5	北 33 57.8	
西川 英男	大阪市	東 135	北 34	

課員は住所の經緯度と海面の高さを、申込みと同時に御報告下さい。若し五萬分の一の參謀本部地圖に御住所の點を附し花山天文臺へ送つて下されば、經緯度を算定して上げます。

花山天文臺に於ける夏期中の觀測は曇天多く、7月26日の月食の時も、又8月4日曉の掩蔽も觀測出来なかつた。掩蔽觀測に臨んで最も重要な事は、出来るだけ精密級の時計を保持し、正確時を維持する事で、0.1秒までの讀取に對しても常に信頼し得る確度を與へるものであつて欲しい。そして觀測の前後には必ず、ラヂオの時報、或は出来れば無線電信の時報（「天界」第十二卷7年九月號第297頁參照）を受信し、時計と比較して觀測時刻の正確を期したい。

精密級の時計に關しては最近の文獻として「天界」第12卷第134號（7年6月號）第211頁、第13卷第152號（8年12月號）第46頁、第14卷第159號（9年7月號）第346頁等に精細に記載されてゐるから參照されたい。（高城）

流星課報告 (昭和九年三月及四月)

三月及四月の觀測は割合少數であつた。四月には琴座流星群の出現が比較的好條件に置かれたが、觀測は不充分に終つた。新たに觀測者四氏を御紹介する。御奮闘をいのるものである。

福岡市博多壽通

京都市中京區烏丸通蛸藥師角三和銀行京都支店內

神戸市高羽諏訪山

宮崎縣北諸縣郡高崎村大字前田

安 武 研 二君

高 井 博 典君

荏 部 進君

肥 木 田 文 雄君

流星群の出現狀況

前記琴座流星群は本田、勝浦、稻垣、和田の四君及筆者によつて觀測した丈であつて、特に最盛時の22日夜半後以外の觀測は甚だしい。

筆者が22日午前一時半より一時間四人の共同者とともに Counting method によつて數へ得たる流星の數は

琴 座 流 星 群	22
他 群	17
合 計	39

で、琴座流星群の出現としてはあまり淋しい方ではなかつた様である。

其の他、南米の勝浦君によつて4月10日前後にコップ座に、同月20日前後に乙女座に輻射點を有する流星群の出現を認められてゐるが、あまり顯著のものではない。

詳細は花山ブレテン第288號を見られよ。

又、一つの隕星坑

米國ではアリゾナ州フラグスタフ市に近く、有名な Meteor Crater と呼ぶ不思議な坑があつて、昔し(?)、隕星が空から落下して作つた凹みであると、ひろく喧傳されて居るが、一昨年頃、東部のカロライナ州の海岸地方にも此の種の隕星坑が飛行家によつて多く發見されたといふ説が傳へられた。——ところが、最近、又々、同じ米國のネヴァダ州ファロン Fallon 市の東北東に當つて、直徑1マイルばかりの坑が問題となつた。之れは以前から火山の噴火口の跡だと思はれてゐたが、近頃、地質學者たちの調査により、隕星坑だといふことが確かめられたといふ。

黄道光課月報

幹事 淺野英之助

七月分の報告は僅少のため八月と共に次回へ掲げます。

10月の状況豫報

黄道光 西天——宵の觀測は前月末より引續いて1日——12日頃迄可能であ

る。又、月末27日頃以後翌月へかけても可能である。

此頃は黄道の傾斜最も甚だしく且つ銀河に妨げられ一年中でコン
デション最悪の頃である。月末は漸く銀河以東に移る。

比較銀河はC。

東天——曉の觀測は7日——21日頃迄可能である。此頃、銀河を天
頂に見て懐しき獅子座のあたりコンデションは甚だ良くなつてく
る。比較銀河はM。

對日照 宵22時頃から曉3時頃迄の觀測は1日—20日頃迄可能である。今月
は大いに觀測上興味のある月でバーナード氏に依れば

“10月の初め頃は真に圓く、大きいのが直ちに著しい變化を始める。4日から
10日頃には僅かに長くなる。それが10日から11日頃からは黄道に沿つて甚だ
長くなり、殊に18日頃には黄道上に長く延びてゐる光帶上の單なる膨ら
みに過ぎない様に思はれる、”(課通信No.36参照)

今月は好機會であるから是非諸君の熱心に依つて充分に真相を究
めたいものである。位置は魚座附近。

同時觀測其他の計劃はその都度各觀測者に急報を發送してゐます。

南米の觀測近況

最近到着した本年六月の觀測報告に依れば、勝浦君、大窪君共に觀測數12
回で曉が多く常に光帶が見えてをり、勝浦君は甚だ幅廣く大窪君又、相當に
觀測番號 (6月分)

勝浦茂雄君 308—319 大窪文秀君 361—372

廣く、特に同君は黄道光の低部より頂點、光帶へ(時に對日照へまでも)かけ
て其の中心線上に稍々明るい、しかも比較的區劃線の顯著な幅 10° — 5° 程度
の中心帶を注意されてゐる。黄道光の明るさは西天は稍々淡く、東天は射手座
座 γ 星附近の銀河の1.5 $\times$ 程度が普通である。本月は對日照の觀測はない。

次に、勝浦君に依れば、明るさは宵曉共に昨年六月より稍々明るく一昨年觀測開始の頃よりは淡く、色は常よりも稍々青味が強く感ぜられた、とあり、又

“Band は常に東西に認められ、實に見事なものです。明るさは殆んど一定してゐる様です。銀河が丁度東西の地平線上に位する場合は、銀河の明るさは非常に衰へて見えますが、銀河に代つて Band が美しく見えます。銀河と比較して淡い乍らその淡い銀河と直角に天頂を通つて東西に連る様は一大美觀であります。

我々の地球が常にあの様な光りの帶でとりまかれてゐるのかと思へば何んとか怖ろしさを覚える位です。”

以上の如く實に壯觀な様が察せられるが、その實感は觀者に所謂地球説を肯定せしめた様である。なにはともあれ、我が同胞の異郷の地に開墾のかたはら、宵から曉へかけて日々徹宵せんばかりの努力が屈せず拂はれてゐることは、全く感激の外なく當に懦夫をして起たしむの慨がある。益々兩君の健闘を祈つて止まない。(VIII. 31. 1934)

彗 星 課

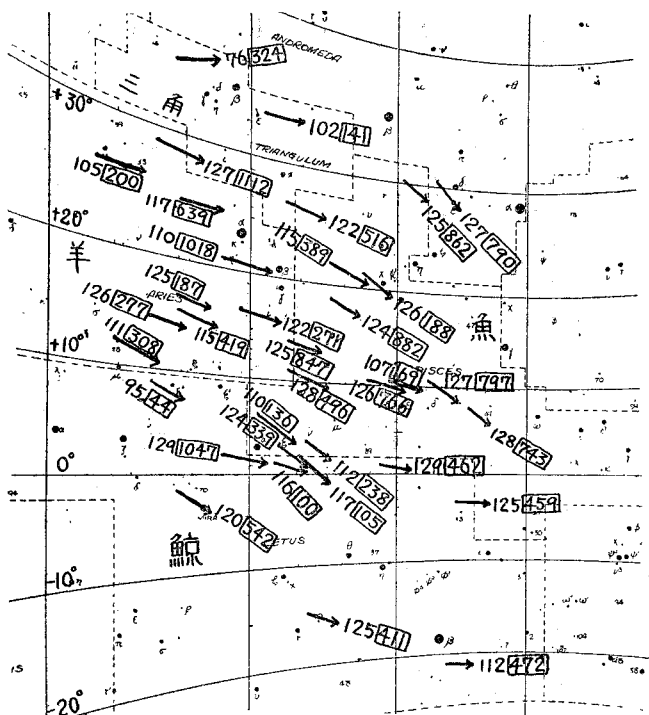
Encke 彗星 (1934a). 去る7月發見されてより、段々光度が大きくなつて、8月17日の朝には9.0^m位になつた。夜明け少し前、曉に先んじる事約1時間餘り何しろ東の空に低いので絶えず雲に妨害されて8月中は際どい觀測であつた。前月號に報じた豫報位置は8月20日に於いて、 $\Delta\alpha = -0.3^m$ $\Delta\delta = +1.5'$ 位のO—Cがあつた。9月15日近の點を通過して以後、夕方の空に見える。本月の豫報位置は次の通りであるが、多分見えないだらう。

10月 1日	13 ^h 21.6 ^m	-13° 40.5'	11日	14 ^h 30.6 ^m	-21° 1.9'
3	13 36.0	-15 23.9	13	14 43.5	-22 8.7
5	13 50.0	-16 59.5	15	14 56.2	-23 9.0
7	14 3.8	-18 27.6	17	15 8.5	-24 3.1
9	14 17.3	-19 48.3			

段々南へ下る。光度も淡くなつて、北半球の觀測表には都合悪くなる。

ワハマン氏が去る8月10日發見された 1934 b 彗星 即ちシヴスマン第二週期星 (ブレテン第288號を見られよ) は後報により小遊星(44) Nysa であると判明した。

寫眞課 (十月中旬の小遊星圖)



大分涼しくなつて戸外觀測も、大變樂になる。中秋の名月の後を受けて、一年中を通じて最も空の澄む時になつたから、せいぜい長時間曝寫して、淡い星迄撮影されん事を望む。小遊星も段々北天に移つて來て、すゝきにそよぐ秋風の音を聞きながら星を追つて居る最も印象の深い時期である。

遊星面課月報

土星 昨年は白斑で眼を引いたが、今年は落付いて居るか？ 別に大した變化は見られず、又情報も入つて居ない。溫帶部が目立つて暗く又6月に比べて極部より赤道部の方が幾分暗い様であるが、昨年の跡は全くない様である。15cm以上の方は是非今後見て欲しい。去8月27日山本課長は花山30cmで二十年來見たことの無い立派な土星を見た。

來年の火星が年末から少し見られる様になるので プランを各自にそろへ立つて、課の方へ知せて戴き當幹事の方で總體纏めて適宜に計畫したい。右お願ひして置く。

變 光 星 課 報 告 (19)

小 山 秋 雄

八月中の觀測數

星 名	今 津 績	木 邊 成 磨	加 藤 孝 一	西 村 繁 三 郎	沓 掛 七 二	金 田 弘 倫	木 下 謙	勝 浦 茂 雄	高 井 博 典	鈴 木 一 男
V Aqr	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
UU ♄	—	16	—	—	—	—	—	—	—	—
SS Aur	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
V Boo	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9
l Car	—	—	—	—	—	—	—	31	—	—
ρ Cas	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
δ Cep	—	—	—	—	—	11	—	—	—	—
o Cet	—	2	—	—	—	—	—	—	—	10
R Cor	14	—	17	—	—	14	7	—	—	—
λ Cyg	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—
U ♄	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—
W ♄	11	—	—	—	—	14	16	—	—	—
SS ♄	12	16	—	—	—	—	17	—	10	3
CH ♄	—	—	—	—	—	—	—	13	—	—
u Her	—	—	—	—	—	11	—	—	—	—
R Hya	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
δ Lib	—	—	12	—	—	2	—	—	—	—
β Lyr	—	10	—	—	—	12	—	—	12	—
AY ♄	—	2	—	—	—	—	—	—	—	5
R Oph	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
V ♄	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RS ♄	—	11	—	—	1	—	—	—	—	—
S Ori	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—
R Peg	1	3	—	3	—	—	2	—	4	—
S ♄	2	—	—	—	—	—	3	—	—	—
RUS ♄	—	10	—	8	—	—	4	—	—	—
X Sgr	—	—	—	—	—	9	—	—	—	—
W ♄	—	—	—	—	—	8	—	—	—	—
VSOS ♄	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—
S Scu	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
R Scu	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—
N Vel	—	—	—	—	—	—	—	31	—	—
合 計	69	73	39	18	1	81	50	75	30	27

▲ 8月は好天氣の爲、報告數は甚だ多かつた。上表の中、勝浦氏のものは6.7月の分である。

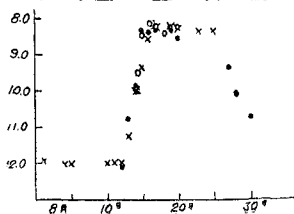
▲ 新に報告を送られた鈴木一男氏を紹介する。

大阪市南區鰻谷仲之町55 鈴木一男 7cm反射鏡

▲ 8月より報告された方には從來の葉書を止め、葉書型の簡單な謄寫版刷を配布してゐる。

▲ はくてう座SS星の8月の極大。花山急報97號參照。黒圓は木邊、白圓は今津、十文字は木下氏の觀測。

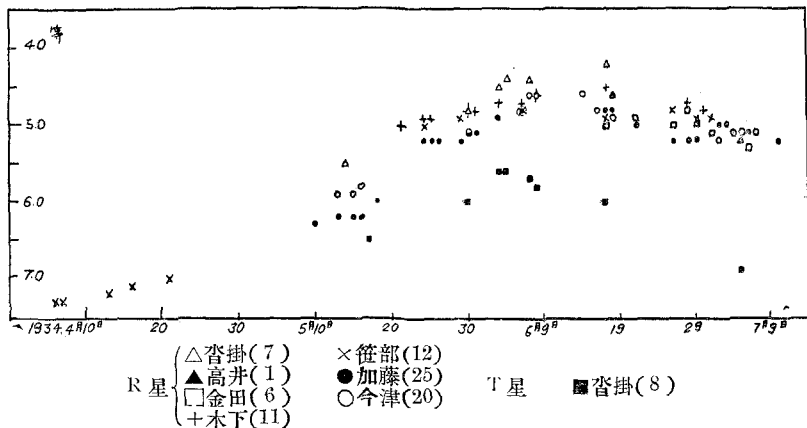
はくてう座SS星の8月の極大



ヒドラ座R星及センタウル座T星の極大。課員の觀測より別圖の光度曲線を引いた。詳しい事は今秋發行の花山ブレテンに發表されるが、これより決定した極大時は次の如し。

		ヒドラ座R星	センタウル座T星
極大日		1934年 6月13日(4.6等)	1934年 6月7日(5.6等)
豫報	AAVSO	6月1日	6月9日
	プラ1ゲル	6月30日	
	神田	6月14日	6月3日

ヒドラ座R星及センタウル座T星の極大



變星觀測の好季

アルゴル星の極小の日(1934年)

10月	11月	12月
日 時	日 時	日 時
1 0.4	1 13.3	3 2.3
3 21.3	4 10.1	5 23.1
6 18.0	7 6.9	8 19.9
9 14.8	10 3.8	11 16.7
12 11.6	13 0.6	14 13.5
15 8.5	15 21.4	17 10.4
18 5.3	18 18.2	20 7.2
21 2.1	21 15.0	23 4.0
23 22.9	24 11.8	26 0.8
26 19.7	27 8.7	28 21.6
29 16.5	30 5.5	31 18.4

ラレ座λ星の極小の日(1934年)

11月	12月
日 時	日 時
2 12	4 3
6 10	8 1
10 9	12 0
14 8	15 23
18 7	19 22
22 6	23 21
26 5	27 19
30 4	

太陽課 黑點相對數報告 (1934年八月)

觀測者(觀測地)	松本(臺灣臺中高女)	山田(山口縣柳井町)	日野(愛媛縣新居郡)	改發(神戸市須磨區)	荏部(神戸市灘區)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	井澤(大阪府岡中學)	北村(大阪府外布施)	前田(京都市下京區)	龜井(花山天文臺)	木邊(滋賀縣中里村)	三澤(長野縣上諏訪)	沓掛(長野縣青木村)	清水(静岡縣島田町)	森久保(橫濱市中區)	淺居(橫濱保土谷區)	水谷(東京市本郷區)	稻垣(東京市芝區)	山根(東京市澁谷區)	千葉(岩手縣水澤町)	下保(札幌市豐平町)
鏡徑耗	50	75	98	150	75	36	110	50	70	55	73	73	102	100	35	27	38	75	44	50	58
倍率	40	48	69	68	77	55	92	62	40	64	60	83	75	73	50	50	50	30	43	50	44
1	0	旅	0	0	忙	0	0	0	0	旅	0	0	0	0	雨	雨			雨	0	0
2	0	旅	0	0	0	0	0	0	0	旅	0	0	0	0	0	0			0	0	0
3	0	旅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
4	0	旅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
7	11	旅	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
8	11	旅	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
9	11	旅	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
10	23	旅	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
11	23	旅	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
12	11	旅	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
13	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
14	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
15	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
16	31	27	29	25	32	23	31	27	31	27	31	30	28	32	37	23			33	26	25
17	27	26	26	24	27	23	28	26	26	26	26	25	28	23	27	22			26	27	25
18	11	23	23	22	23	22	25	22	22	22	22	22	23	23	23	24			23	24	22
19	0	11	0	0	12	0	12	欠	欠	欠	欠	11	11	11	11	0			11	13	0
20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
24	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
25	11	旅	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
26	11	旅	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
27	11	旅	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11			11	11	11
28	0	11	12	0	忙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
平均	7	10	10	8	9		6	8	12	7	8	8	10	8	7			11	13	7	
日數	26	15	23	31	23		26	31	14	19	26	21	25	19	21			21	12	27	

●荏部、前田兩氏が一ヶ月皆測であるのは自他共に喜ばしい事で、かくの如きは長年の觀測に於ても極めて稀な事であるが、然し又なかなか努力の要する事でもある。恐らく、終日の曇天なるも時々雲の切間から瞬間的に陽光のもれる折を斷へず注意されたいといふやうな日が、幾日かあつた事であらう。